



Emergency Watch NO. 48 Dec, 2014



神戸こども初期急病センター 2014年11月受診者数：2354人

訴え

- 1. 発熱 : 1247人 (877人)
- 2. 咳嗽 : 1052人 (288人)
- 3. 鼻汁 : 946人 (20人)
- 4. 嘔吐 : 594人 (350人)
- 5. 下痢 : 249人 (40人)
- 5. 痛み : 249人 (103人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 704人
- 2. 感染性胃腸炎 : 475人
- 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 249人
- 4. クループ性気管支炎 : 89人
- 5. じんま疹 : 79人

☆ 今月のワンポイント ☆

12月になり寒さも厳しくなってきました。本格的な冬の到来です。11月の受診患者さんは2354人で、先月より722人増えました。感染症のシーズンの始まりとも言えます。疾患の頻度はほぼ変わりませんが、感染性胃腸炎が181人から475人と急増しています。



先月はインフルエンザについて書きましたので、今回はそれ以外の冬に流行する感染症についてお話しします。

① RSウイルス感染症：このウイルスは、乳幼児期に喘鳴(ぜーぜー)を起こす代表的なものです。年長児では症状は軽度ですが、2歳以下、特に6か月未満の乳児は症状がひどくなりやすいので注意が必要です。また、予定日より早く生まれた方、体重が小さく生まれた方も重症化しやすいので注意しましょう。

症状は咳・ぜーぜー・呼吸が速いといった呼吸器症状が主で、1週間程度続きます。発熱を伴うこともあります。低体温となることもあり、熱がないから大丈夫、ということはありません。治療は、抗生物質は効果がなく、咳・鼻水の薬などの対症療法となりますが、中には呼吸困難などで入院が必要となる方もいます。呼吸がしにくそう、顔色が悪い、ミルクの飲みが悪いなどの症状がある場合には、速やかに診察を受けるようにしてください。冬場は部屋が乾燥しがちですが、症状を和らげるために部屋の加湿はしっかりと行いましょう。また、感染予防として日ごろからの手洗い・うがいを徹底し、感染予防に努めましょう。

② おう吐下痢症：今月患者さんが急増した病気です。原因はロタウイルス・ノロウイルスといったウイルス性のものが多く、おう吐や白っぽい、酸っぱいにおいのする下痢が特徴で、症状は1週間ほど続きます。熱が出ることもあります。治療は対症療法中心です。吐き気があるうちは無理に水分を摂取せず、吐き気止めの薬などを使って吐き気が治まってきたところで、少しずつ水分を取るようにしましょう。冷たいもの、味付けの濃いもの、油っぽいものはおなかの負担になるので避けましょう。下痢については、下痢止めは使用せず、おなかを整えるお薬の内服を行います。薬を用いても吐き気が治まらない時、顔色が悪い時、唇が乾燥しておしっこが少ない時には、点滴での治療が必要になることもあるため、速やかに小児科を受診するようにしてください。